

「母の日」ヘルスケア 昔の常識、 いま非常識

昔、正しいと思って実践していた健康法や治療法。最近は何だか違っているみたい…と感じたこと、ありませんか?地域密着の「かかりつけ医」をご紹介します毎年恒例「母の日健康特集」。今年は先生方にそんな疑問を投げかけてお答え頂きました。今どき「常識」を知ること健康への意識を高め、家族みんなが元気で笑顔で過ごせますように…。

「眼科のいまむかし」

昔

寝る前には目薬を差したらいけない。

今

かつては硝酸銀、硫酸亜鉛の水溶性点眼液が収斂剤として結膜炎に使用されました。収斂とは、炎症をおこした結膜表面に刺激を与えて新陳代謝を促し、血管を収縮させて腫れを引かせることですが、このとき銀や亜鉛の殺菌、抗菌効果を利用して細菌性結膜炎を治す目薬です。ただ、金属には組織への腐蝕作用があり、点眼後は薬剤が涙液でしっかり代謝分解されるのを待つ(10分以上)か、洗眼する必要があり寝る直前に差すな、ということでしたが、今は抗菌力の高い点眼薬が沢山あり、収斂点眼薬は使いません。もちろん就寝前に差しても大丈夫です。(伊田眼科院長・伊田宜史)※6面に診療案内有り